

次の問いに答えなさい。

問 一 次の傍線部のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

- 1、あの人は健康でメイロウなので皆に好かれている。
- 2、やはり親が元気なうちにコウコウしておいたほうがいいと思う。
- 3、彼女は、不正を許さないゲンカクな人物として知られている。
- 4、仏壇に花をソナえ、亡くなった方の冥福を祈る。
- 5、問題が起きた時は、速やかな事実関係の確認が大切です。
- 6、節分は、災いをもたらす鬼を追い払う日です。
- 7、己に打ち勝つ者は二度勝利する、とローマの作家は言った。
- 8、こそそと他人の行動を探るのはよくないことだ。

問 二 次の1～3の傍線部の意味としてふさわしいものをそれぞれの選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- 1、冬休みの宿題を早めにかたづけることにやぶさかでない。
- ア、力を尽くさない
- イ、しぶしぶやり始める
- ウ、努力をおしまない
- エ、自分のやり方ではない

2、彼は、氣のおけない人だ。

- ア、まめで氣のまわる
- イ、氣の合わない
- ウ、氣樂に付き合える
- エ、長い付き合いの

3、友達は二つ返事で誘いに応じた。

- ア、すぐに快く引き受けて
- イ、あれこれ迷ったあげく
- ウ、仕方なく相手の頼みを聞いて
- エ、よくよく内容を検討した上で

問 三 下の意味に合うように、次の1～3の□にふさわしい言葉を入れて慣用句を完成させなさい。ただし、□には平仮名一字が入るものとします。

《慣用句》

《意味》

- 1、□□に上げる・・・知らぬふりをして放っておくこと。
- 2、□□を投げる・・・あきらめて途中でやめること。
- 3、□□につく・・・職業や任務がその人にぴったりとあっていること。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、字数に制限がある場合は、句読点や記号も字数に含まれるものとします。

アメリカから来ている若い教師が、変なことを言う。

「ころがる石はコケをつけない (A rolling stone gathers no moss.)」

ということわざを、逆の意味で使っているのである。

もともとは、住まいや仕事をたえず変えているような者は成功しない (カネはたまらない) の意味である。ところが、このアメリカ人は、「優秀な人材にはコケみたいなものがつかない」という意味で使っているのである。

<sup>1</sup> おかしい。教養がないのだろうか。<sup>2</sup> いやしくも教師になるくらいは教育を受けた人間として、<sup>3</sup> おかしい。

同僚でことばに詳しい英語教師にきいてみると、そんなのは誤りだ、と相手にしない。やはりそうかと思う。

注意して聴いていると、ほかに、同じように「ころがる石は優秀である」という意味で使っているアメリカ人がいる。これは単なる誤解ではなさそうだと思うようになり、さきの同僚にもそう伝えた。

彼はいろいろな文献に当たったが、ころがる石を評価する解釈は見当たらない。

やはり無学なアメリカ人の思い違いだろうか。

釈然とせず、ぼんやり考えていた。アメリカ的解釈のことばとしても誤りではないと思うようになって、そのころ編集していた雑誌「英語青年」に、<sup>4</sup> 小さなコメントをのせた。

それがきっかけになったのかどうかかわからないが、方々から、アメリカの用例が報告された。やはり、単なる誤用ではないらしいことがはつきりしてきた。

その後出た日本の英語辞書で、このことわざの意味として、イギリスの意味とならんでアメリカの用法を併記するものがあらわれた。おそらく世界ではじめてであっただろう。

<sup>5</sup> 日本の英語が思いがけぬ拾いものをしたようなことになったのが、ちよつと愉快である。外国語というものを反省させるきっかけになる。

イギリスは意地になっても、アメリカ式解釈を認めようとしないうだろう。日本の英語教師もイギリス英語の肩をもつか

ら、なかなか認めることができなかった。

中立的、第三者的立場に立てば、イギリス流と同じようにアメリカ流も認めることができる。日本はそういう恵まれた立場にあることを、このエピソードは教えている。

イギリスは日本と似て多湿である。コケを嫌わない。それどころか、よいものと思っている。現に、イギリスの辞書で、「コケ」に「カネ」という意味を与えているものがある。「ころがる石はコケをつけない」は、ぐつと腰を落ちつけないとカネはたまらないと、俗解していたのである。

かたや、アメリカはドライな気候である。コケなど生ずるのはむずかしい。そんなところに生えているなら、きたないコケである。このことわざをごく自然に、イギリスとは逆の意味に解する。

つまり、優秀な人材はあちこちからひっぱりダコになるから、コケなどつけるわけがない。いつも輝いている、というわけである。

日本もイギリスにまけない多湿の風土である。当然、コケは美しいものと感じられる。コケで有名な苔寺 (京都の西芳寺) まである。

日本の国歌は、<sup>6</sup> さざれ石が <sup>いね</sup> 巖 となるまで、という <sup>6</sup> 超科学的なことをうたっているが、それにつづいて、「いわおとなりて、<sup>7</sup> コケのむすまで」とコケをありがたがっているところはイギリスに通じる。

アメリカよりイギリスのほうが好ましいという日本人がすくなくないが、コケを礼賛している点にも相通ずるものがある。

ただ、戦争にまけて鞍替えしたわけではないだろうが、アメリカ式のドライなものが好まれるようになったこともあって、コケを美しいと思う感覚がゆらいでいる。

もとへ戻ることがあるかどうかかわからないが、<sup>7</sup> コケを嫌う人とコケを愛でる人とは、人間がすこし違うように思われるが、どうであろうか。

コケに対する気持ちを左右するのは、多湿という自然環境だけではない。流動的な社会と安定、固定的な社会との違いも反映している。

代々同じところに住んでいる人たちと、仕事で住まいを変えざるを得ない人とは、変化について反対の気持ちをもつ。

昔ながらの生き方をよしとする人たちにとつては、ころがる石は派手、信用できない、となるが、競争に生きる人からすれば、<sup>8</sup> 十年一日、同じことをしているのは自慢じまんにならないのである。

日本は戦後、コケの文化を捨てて、ころがる石になろうとする人間がふえた。その変化のなかで、ひどい目にあつた人がいたことを知らない人が多い。

コケはよいのか、悪いのか、はつきりしなくなっていた人たちをおどろかせたのが、「ザ・ローリング・ストーンズ（このころは「ザ・ストーンズ」を名乗ったイギリスのロックバンドである。

1 これなら、イギリスにもアメリカにも通じ、おのずから全世界的な活躍が約束される。この命名に感心する日本人がす  
2 くなかったのは、文化的未熟さを露呈するものであつて、残念である。

日本は、“ころがる石派”と“不動派”の中間に立っているということが出来る。<sup>1</sup> どちらにもない、新しい文化を生  
 きることができないわけではない。

《外山滋比古『100年人生七転び八転び』より》

(注) さざれ石……………小石。

巖……………大きな岩。

コケのむすまで：一面にコケで覆おおわれるまで。

問 一 — 1・3 「おかしい」とありますが、筆者は何を「おかしい」と思っているのですか。それを説明した次の文の□に入る言葉を、それぞれ二〇字以内で答えなさい。

筆者は、

|   |
|---|
| A |
|---|

が

|   |
|---|
| B |
|---|

ことは「おかしい」と考えている。

(Aには人物の説明、Bにはその状況の説明が入ります)

問 二 — 2 「いやしくも」・8 「十年一日」の文中での意味としてふさわしいものを、次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

2

ア、かりにも  
イ、貧しくとも  
ウ、当然ながら  
エ、恥ずかしながら

8

ア、長くても短くても関係なく  
イ、長く見えてもあつという間に  
ウ、長いあいだに何も変わらないで  
エ、長らく変わらないことが急に變化しても

問三——4「小さなコメント」とはどのようなものだったと考えられますか。本文に即してその要旨を簡潔に答えなさい。

問 四——5「日本の英語が思いがけぬ拾いものをしたようなことになったのが、ちよつと愉快である」とありますが、その理由としてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、アメリカの肩をもつ立場を基本としながらも、より中立的な立場の日本であるからこそ、アメリカ式解釈の誤りにも気づけたから。

イ、英語を母国語としない日本ゆえに、様々な解釈について客観的に判断できる点で、むしろイギリス・アメリカより優位であるから。

ウ、中立的立場である日本でなくては、イギリス・アメリカのことわざ解釈における対立を解消し、統合してゆくことはできないから。

エ、英語を公用語とする当事国ではないという立場の日本であるため、イギリスの時代遅れの解釈への反省を求めることもできるから。

問 五 — 6 「超科学的なこと」とありますが、そのように言える理由としてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、石が生物のように成長するようなことはないから。
- イ、小石を集めて大石を生成するには高い技術が必要だから。
- ウ、石は自然に割れて小さくはなるが自然に結合はしないから。
- エ、多量の小石を集めるには相当な時間と労力がかかってしまうから。

問 六 — 7 「コケを嫌う人とコケを愛でる人とは、人間がすこし違う」とありますが、「コケを嫌う人」とはどのような生き方をする人ですか。文中の言葉を使って三〇字以内で答えなさい。

問 七 — 9 「コケの文化」とありますが、ここではどのような文化のことを示していますか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、腰を落ち着けてカネをもうけることに精を出し、あくまでも自身の利益を優先して考える文化。
- イ、自身の生まれ育った国の自然を礼賛し、美しい自然と共に生活を送ることを美德と考える文化。
- ウ、多湿の気候の中でお互いに助け合って暮らし、派手さはないがひどい目にあうこともない文化。
- エ、安定した社会の中で昔ながらの生き方をして、腰を据えじつくりと物事に取り組んでいく文化。

問 八 — 10 「これなら、イギリスにもアメリカにも通じ、おのずから全世界的な活躍が約束される」とありますが、筆者がそのように考える理由としてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、コケのよし悪しには言及せずに、イギリス的価値観を世界に広められるから。
- イ、コケがよいのか悪いのかといった既成の価値観にとらわれないバンド名であるから。
- ウ、イギリスのロックバンドでありながら、アメリカ的価値観に比重を置いているから。
- エ、解釈はどうあれ、有名なことわざからとったバンド名で、世界中のだれにも認知されるから。

問 九 — 11 「文化的未熟さを露呈する」・12 「どちらにもない、新しい文化を生きたことができないわけではない」とありますが、日本文化の現状と今後の可能性について、筆者の意見にもっとも近いものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、現状では全世界的な視野に乏しく、もっぱら国内の二つの立場の対立に苦心している日本であるが、国内の立場が一つにまとまれば、世界的に影響力を発揮していく可能性をほめかしている。
- イ、現状では二つの立場とその対立にしか目がいかない日本であるが、常に立場を変化させてきた過去の実績から、今までの世界には存在しなかった新たな価値観を示す可能性のあることを確言している。
- ウ、現状では二つの立場の克服のヒントとなるような事例にもあまりに鈍感であるものの、この二つの立場を知る日本こそが、それらを超越した新たな価値観を生み出す可能性があることを指し示している。
- エ、現状では音楽界からの提言など耳にも入れない日本ではあるが、様々なジャンルの文化を総合することにより、旧来のジャンルにとらわれない新たな価値観を生み出す可能性があることを論証している。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、字数に制限がある場合は、句読点や記号も字数に含まれるものとします。

長引く戦争が人々の生活に影を落とし始めた時代、三階建ての同潤会代官山アパートに「竹井」と妻の「八重」、そして小学三年生になる娘「恵子」が住んでいた。通りをはさんで向かいにある二階建てアパートには、杉岡家の娘である一四、五歳になる女学生「ハナ」と、ハナの兄で、当時の中学に通う「俊平」が住んでいた。

タオルを取りこんで窓を閉めようとした時、眼下の通りを白いものが動いた。猫のユキが向かいの棟へ走っていくところだった。庭側の窓が開いており、昨日と同じ半纏を着たハナが凍りついたように立っている。

ユキが庭の柵をすり抜けようとした時、少女はびしやりと窓を閉めてしまった。音に驚いた猫が足を止め、やがて向きを変えて去っていった。

以前はハナが世話していた猫で、今も彼女に懐いている。拒むような真似をする理由はないはずだ——しかも猫の姿が消えてから、ハナはおそろおそろ窓を開けて様子を窺っている。いなくなったのを確かめているように。

(……そういうことか)

頭の中ですべてが繋がった気がした。

そこへ風呂敷包みを背負ったジャンパー姿の俊平が、口笛を吹きながら現れた。曲は昨日も歌っていた「もろびとこぞりて」だった。窓辺にいる妹に気付くと、小走りでひらりと柵を乗り越えた。

「一足早くサンタクロース様が来たぞ。メリークリスマス！」

元気に声をかけられて、ハナが噴き出した。大きな荷物を背負っている以外、サンタクロースとまるで共通点がない。せいぜい行商人の見習いというところだ。妹を笑わせようとしているのだろう。

「いい子のお前に、プレゼントを持ってきた！」

風呂敷の結び目をほぐくと、窓枠に腰かけている妹に次々と中身を手渡した。大きなカステラの箱、鶏卵の詰まった籠

に牛肉の大和煮の缶詰、赤い包装紙に包まれたカルピスの瓶まであった。

(今月は金欠ですからね)

大人ぶった物言いが脳裏に蘇った。あれだけ滋養のありそうな食べ物を買いかもうとすれば、小遣いが足りなくなるに決まっている。

視線に気付いたのか、竹井の方を見上げた俊平が神妙に頭を下げてくる。大事そうにカステラの箱を抱えたハナも兄に倣った。

じろじろ眺めているのも気が咎める。竹井は二人に目礼して窓を閉めた。振り返ったところに、八重が台所から現れた。

「風が強いから、取りこんでおいたよ」

「ありがとうございます」

と、まだ湿っているタオルを受け取る。

「八重」

隣の部屋へ行こうとしていた妻が振り返る。気になっていたことがあった。

「一昨日、俊平君がここへ来た時、どんな話をしたのか憶えているかい」

タオルを抱えたまま、八重は小首をかしげた。

「話をしたというより……わたしが俊平君の話を聞いていました」

「君からは何も話さなかったの」

彼女はうなずく。

「……相づちは、打ちましたが」

光景が目には浮かぶようだ。口数の多い俊平と、口の重い八重が一緒にいれば当然そうなるだろう。

「あの、それがなにか」

別に口止めされているわけではなかったが、昨日俊平と話したことを妻にはまだ伏せていた。すべて打ち明けるべきか迷っていると、玄関からノックの音が響いた。

そろそろ来る予感がしていたので、竹井が玄関の扉を開けた。立っていたのはやはり俊平だった。

「こんにちは。これを」

手には風呂敷包みを持っている。少し出てくるよ、と妻に声をかけて、俊平を促して踊り場まで下りる。二人きりで話す方がいいような気がした。

「これ、お返しします」

差し出された包みを受け取る。隙間から中を覗きこむと、黒いガラスの目がこちらを見上げていた。ふわふわした白い毛で覆われた猫のぬいぐるみだ。間違いなく竹井がデパートで注文したものだった。

「ハナちゃんを持っていたんだね」

竹井はざりと切り出した。俊平の目が大きく見開かれる。さっきハナが猫に見せた態度で、なにが起こったのかだいたい分かった。

「このぬいぐるみを抱かせてやっただろう……ユキの代わりに」

「そうです」

少年は苦い顔つきでうなずいた。

「あいつ、ユキが近づいてくると追っ払うようになったんです。あんなに可愛がっていたのにどうしてだって訊いたら、動物にも病気がうつるかもしれないなんて言うんですよ。誰に吹きこまれたのか知りませんけどね」

その話の出所は見当がつく。四国にいるという杉岡家の親戚は、ハナの受け入れを断った時に使者を寄越してきたという。このアパートで話したなら、家畜に結核菌が感染する、という口実をハナが耳にしていた可能性がある。

「それでも寂しくて仕方がないみたいでした。竹井さんのうちにプレゼントを運ぶ時、ふっと思っちゃったんです。こいつを抱かせてやれば少しは元氣が出るかなって……本当はあの日のうちに返すつもりだったけど、ハナがあんまり喜ぶもんだから、借り物ってことも言い出せなくて」

このぬいぐるみはあの白い猫によく似ている。子供向けのおもちゃを抱くハナの胸の内を思うといたたまれなかった。

「このぬいぐるみを返すこと、ハナちゃんは知ってるのかい」

「カステラ食ってる間にこっそり持ち出しました。後でちゃんと説明します」

本当の事情を知ればハナは黙って手放すに違いない。今ですら病氣に耐えている少女に、これ以上の忍耐を強いるわけだ。本人には何の罪もないのに。

竹井は俊平に風呂敷包みを差し出した。

「ハナちゃんの部屋に戻しておきなさい」

「え、でも……」

「これはハナちゃんへのクリスマスプレゼントだ。恵子の分はこちらでどうにかするよ」

今から買い直してもクリスマスには間に合わないかもしれないが、ハナからこれを取り上げるよりはましだ。転地療養で住み慣れたこのアパートを離れるなら、少しでも心の支えになるものがあつた方がいい——萎める心に、少しでも花を咲かせてくれるものが。

「ありがとうございます」

俊平は包みを受け取って、胸の前で大事そうに抱えこむ。唇がへの字に曲がっている。涙をこらえているようだ。

「このご恩は一生忘れません。今後、僕にできることがあつたら何でもします。必ず……必ず恩返しをいたしますから」  
そこまでの話ではない。とはいえ、気持ちには嬉しかった。

竹井の勤める会社では、十二月二十四日の午後は半休になる。本社がドイツにあり、外国人の社員も多いせいかもしれない。去年までと同じようにクリスマスパーティーが開かれる店はないのか、ひそひそ声で話し合っている若手の男性社員たちを尻目に、竹井は会社を出た。

重々しい曇り空が広がっている。山手線を渋谷駅で降りて、ハチ公像の向かいにある製菓売店へ向かう。クリスマスの飾り菓子を恵子に買って帰るつもりだったが、ガラスのケースに並ぶ戦車や機関銃をかたどった菓子が白けた。こんなところにも時局が顔を出している。大きなチョコレート箱の一つ買って、逃げるように店を離れた。

商店のショーウィンドーにはクリスマスツリーやサンタクロースの人形がほとんどなく、代わりのように日の丸や旭日旗が飾られている。クリスマスという言葉を避けるためか、「大正天皇祭 報國大賣出中」という張り紙を出す店まである。大正天皇の崩御は十二月二十五日だった。

竹井は東横百貨店のおもちゃ売り場へ行き、プレゼントの箱を受け取った。もう一度注文したぬいぐるみが今日届いていたのだ。リボンで飾られた箱を二つ抱えて、東横線のホームに立っていると、黒ずんだ空から冷たい雨が降り始めた。今日は傘を持って出なかった。自分が濡れるのは構わない。気がかりなのはプレゼントと菓子の箱だ。どうしようか考えあぐねて代官山駅に降りると、改札口の向こうに赤いオーバーを着た恵子が立っていた。自分の傘とは別に大人用の編

蝠傘を地面に突き立てている。雨に気付いて迎えに来てくれたのだ。

「お父さん、お帰りなさい！」

「ただいま」

竹井はプレゼントの箱を振って見せた。傘を差した二人はアパートに向かって歩き出す。

「お母さん、ご馳走作って待ってるよ」

七面鳥のローストと、マッシュポテトと、にんじんのポタージュと、野菜サラダと——恵子が指を折ってメニューを唱える。以前の八重は洋食を作るのが苦手だったが、料理教室に通って練習したのだった。

恵子は父親の持っているプレゼントについて触れようとしないう。竹井の方もハナにぬいぐるみを贈ったと話していなかった。

その必要もないと思っていたからだ。

「クリスマスプレゼントをくれるのが、サンタクロースではなくお父さんたちだって、いつから気付いていたんだい」  
白い息と一緒に、竹井は問いを吐いた。

しばらくの間、二人とも口を利かなかった。傘を叩く雨音だけが人気のない銀杏並木に響いた。

「毎年、プレゼントからお米の匂いがして、不思議に思っていたの。去年、クリスマスの前に米びつを開けてみたら、プレゼントの箱が入って……でも、お父さんたちはわたしのためにサンタクロースがいることにしてるから……」

竹井は苦笑する。子供の夢を壊すまいとしていたが、逆に親の方が氣遣われていたらしい。いつのまにか大きくなっていくものだ。

「ハナちゃんにぬいぐるみを渡したのは、恵子だったんだね。俊平君ではなく」

三階へ運ぶ最中に思いついたようなことを俊平は言っていたが、プレゼントは箱に入れられていた。中身が白い猫のぬいぐるみだと分かるはずがない。無口な八重がわざわざ説明したとも思えない。俊平の話に相づちを打っただけだったと言っていた。

俊平以外でぬいぐるみを持ち出せたのは恵子だけだ。

《三上 延『同潤会代官山アパートメント』より》

(注)

棟……家屋や建物などを数えるのに用いる単位。

半纏……短い和服の上着。ここでは病気のハナが寝間着の上に防寒のために羽織っている。

昨日俊平と話したことを妻にはまだ伏せていた

……この場面の直前、食堂で竹井が俊平にカレーライスをご馳走した時、なくなった猫のぬいぐるみについて、俊平は竹井に、今、理由は話せないが、盗んだのは自分であると話をしていた。

踊り場……階段の途中の少し広い場所。

結核菌……結核という感染症を引き起こす菌。当時は不治の病とされ、多くの人の命を奪った。

転地療養

……きれいな空気の中で安静にして、栄養をとり、治療に専念できるよう、海岸や高山に設けられた療養所に移り住んで長期間療養すること。

時局……世の中の様子。その時の社会の成り行き。

報國(国)大賣(売)出中

……「報國」は国のためにつくして恩にむくいること。

崩御……天皇の死をうやまつていう言葉。

問 1——「拒むような真似をする」とありますが、具体的にハナはどのような態度をとったのですか。文中より

一五字以内で抜き出して答えなさい。

問 2——「猫の姿が消えてから、ハナはおそろおそろ窓を開けて様子を窺っている」とありますが、このような行動をしたハナの心情を三〇字以内で答えなさい。

問 三

——3「竹井の方を見上げた俊平が神妙に頭を下げてくる」とありますが、なぜ俊平は竹井に対して神妙な態度をとったのですか。理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、竹井の娘へのプレゼントを自分が奪ってしまったと竹井は知りながら、とりたてて問題にせずに自分を許してくれたと思い、感謝したから。
- イ、竹井の娘のプレゼントを盗んでしまった本当の理由を、自分の今までの言動から竹井に知られてしまったのではないかと不安になったから。
- ウ、これから竹井の元を訪れ、竹井の娘へのプレゼントがなくなったことについて説明し、自分からそのプレゼントを返そうと思つて緊張していたから。
- エ、竹井にハナとのやり取りをすべて見られ、ハナの病状が思ひのほか軽く、楽しく幸せに暮らしているのではないかと、勘違いされることを恐れたから。

問 四

——4「家畜に結核菌が感染する、という口実」とありますが、四国にいる杉岡家の親戚がハナの受け入れを断つた本当の理由を、二五字以内で答えなさい。

問 五

——5「竹井さんのうちにプレゼントを運んでる時、く借り物つてことも言い出せなくつて」について、この俊平の説明にはうそが含まれています。俊平がうそをついた理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、病気に苦しみ孤立しているハナのことを思つて、まだ手渡されていない自分へのプレゼントを親に黙つて持つてきてくれた恵子を、守りたかつたから。
- イ、病氣や転地療養に心が揺れるハナにとって、心をいやすものが何であるか見抜くことができたのは、恵子ではなく兄である自分だったのだと、竹井に思わせたかつたから。
- ウ、俊平がハナのためにぬいぐるみがある場所を探っている時、ぬいぐるみのある場所を俊平に教え、ぬいぐるみを持ち出しやすくしてくれた恵子の気持ちを、無駄にしたくなかつたから。
- エ、猫のユキに会えなくなつてしまった妹のハナが、たとえぬいぐるみでもいいから猫にもう一度触れたいと言つたことが今回の事件の発端だったことを、ハナの名誉のために伏せたかつたから。

問 六

——6「子供向けのおもちゃを抱くハナの胸の内」とありますが、ハナの胸の内にあるものの説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、自分よりも幼い子供が自分のために贈り物をしてくれたことに対する驚きと、それが子供向けのおもちゃであつたことに対して抱いた軽い失望。
- イ、治ることのない病によつてもう自分は長くは生きられないだろうというあきらめと、それでも自分のために力を尽くす俊平や恵子がいることへの幸福感。
- ウ、転地療養が決まり、猫とも別れなければならないという悲しさと、そのつらい思いをなぐさめてくれるぬいぐるみを親友からもらえたことに対する嬉しさ。
- エ、自分が世話をしていた猫によく似たぬいぐるみに対する愛おしさ<sup>いと</sup>と、自分が猫に直接触れることができなくなつたことを受け入れなければならないという切なさ。

問 七

——7「唇がへの字に曲がつている」とありますが、ここでの俊平の心情の説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、竹井が自分たち兄妹に対して、特別な愛情を注いでくれていたことに気付かされ、今は無理でも将来は必ず恩にむくいたいと、強い決意を抱いている。
- イ、自分の弁明を信じ、責めることもなく自分の罪も許し、さらには、本来娘のために買って来たぬいぐるみまでもハナにくれるという、竹井の思いやりに深く感謝している。
- ウ、猫のぬいぐるみの件では、どうなることかと気が休まらなかったが、結果としてハナが猫のぬいぐるみをもらせることとなり、張りつめていた気持ちがゆるんで安心している。
- エ、本当は自分たちの家のことは自分たちで解決しなければならぬところ、竹井や恵子たちに情けをかけてもらい助けられていることを思うと、どうにもやりきれない気持ちでいる。

問 八

——8「ひそひそ声で話し合っている」とありますが、なぜ「ひそひそ声」で話し合っているのですか。その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、日本全体が戦争一色になっていくことへの反発と、現在も日本のために戦っている仲間がいるのに、自分たちだけがパーティーをすることに對するうしろめたさがあるから。
- イ、外国人の社員が多い会社なので、クリスマスイブの二十四日の午後は半休になるが、他の会社はまだ仕事に、自分たちだけがうかれてはいられないと思っているから。
- ウ、国のために戦争に行きたいと思っていながら、その機会をまだ得られていない引け目と、年に一度のクリスマスパーティーくらいはしたいという願望の間で、苦悩しているから。
- エ、戦争の影響で、外国の文化であるキリスト誕生を祝うクリスマスをひかえる風潮が日本全体に広まっており、取り締まりも強まる中、クリスマスパーティーを開きづらいと感じているから。

問 九

——9「クリスマスプレゼントをくれるのが、サンタクロースではなくお父さんたちだって、いつから気付いていたんだい」とありますが、このような質問を竹井が恵子にしようと思った理由を文中の言葉を使って、五〇字以内で答えなさい。

問一〇

——10「竹井は問いを吐いた」とありますが、「問いかけた」ではなく、「問いを吐いた」という表現によってどのような様子を表していますか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、たとえ知りたくない内容であっても聞かなければならないと悩む様子を表している。
- イ、自分の中で気がかりなことを相手に思い切って聞いてみたという様子を表している。
- ウ、だまされていたという思いが捨てきれず、怒りがこみ上げてくる様子を表している。
- エ、自分たちの方が気を遣われていたことを知り、恥ずかしさを隠す様子を表している。

問一一

——11「逆に親の方が気遣われていたらしい」とありますが、それはどういうことですか。説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、親が自己満足ののためにしていることだと気づかせてしまうのは、恵子にとってはつらく苦しいことだったということ。
- イ、親が長年子供のためにしてくれたことだが、恵子自身はもう受け入れられなくなっている事実を隠したかったということ。
- ウ、親が試行錯誤をしながら、子供を喜ばせるためにしていることだとわかっており、恵子もそれに応えたかったということ。
- エ、親が子供に夢を与え、いつまでも純粋な気持ちのままにいて欲しいと願う気持ちが恵子にもよくわかっていてということ。

